

# トルストイの民話

岩崎京子〔文〕  
かみや しん〔絵〕



女子パウロ会

# トルストイの民話



岩崎京子(文)／かみやしん(画)

97847708

もくじ

イワンのぼか……………5

ふたりの妻人……………61

火は小さいうちに消さないと……………104

人にはどれだけの土地があるか……………133

人は何によって生きているか……………165

あとがき……………198

イワンのばか



スミタケオオキヤクシロキ下田園書

## イワンの兄弟たち

むかし、あるところに、金持ちのお百姓がいました。むすこが三人、むすめがひとりいました。

長男のセミヨーンは軍人になり、出世して領地をもらっていましたが、金持ちのくせに暮らしは寒ではありません。ぜいたく好きのおくさんが、どんとんつかってしまふからです。

次男のタラスはよくばりで、たいこのようなおなかをしていました。商売がやりたいと、町に出ていきました。こちらも成功して、商人のむすめと結婚しました。

うちには、みんなから「ばかだ、ばかだ」といわれているお人よしのイワンと、隣のマラーニヤがいました。マラーニヤは口がきけません。ふたりは、まじめにはたらいていました。

ある日、セミヨーンがやってきました。

「ねえ、お父さん、わたしに財産をわけてくださいよ。」

「おまえはこの家のために、何もしてくれん。なんでおまえに土地がやれるか。ここはイワンとマラーニヤのものだ。」

「ええっ、イワンはばかだし、マラーニヤは口がきけん。土地をやっても、ふたりにはどうしていいかわからんでしょ。」

「じゃ、イワンにきいてみる。」

お父さんはあきれっていました。

ところが、お人よしのイワンはいました。

「ああ、いいですよ。どうぞ。」

セミヨーンは土地をもらって、ほくほくして帰っていききました。

欲でおなかをばはんのタラスは、兄さんが土地をもらったときくと、やっつきました。

「わたしにも、わけまえをくださいよ。」

「おまえはこの家のために、何をした？　ここにあるのは、イワンがかせいだものばかりだよ。」

お父さんについて来たのだと思ったタラスは、イワンにもきました。

「ねえ、おくれよ、イワン。土地じゃなくっていい。穀物半分と、馬を一頭くれよ。」

「いいですよ。持っていてください。」

そこでタラスは穀物と馬をもらって、町へ帰っていききました。

イワンはやせた馬をつかっけて、またせつせと種仕事をしました。

### 悪魔の登場

悪魔の横方は、兄弟が財産のことでけんかをするかと思つたのに、イワンがう

まくまとめたもんで、いまいましくてなりません。

そこで、三人の手下をよんでいいました。

「軍人のセミヨーン、たいこ腹のタラス、それから、ちよつとお人よしのイワンの兄弟のことは知ってるな。やつらをけんかさせなさんならん、おまえら三人、

めいめいだれかにとりつき、

三人の仲をこわしてこい。

できるか?」

「へい、おまかせを。」

「二人が仲たがひ

しないうちは、

帰ってくるな。」

手下の悪魔たちは、

仕事の手はずを相談しましたが、

なかなかきまりません。

そこで、さいころで分相をきめました。



「一週間たったなら会おう。」

そして一週間は、まずセミヨーンの條の悪魔がいました。

「おいらはセミヨーンに、とびつきの勇氣つてやつを

かきこんでやった。やつはまきまんとこにたてかきへん、

「全書界を征服してみせます!」と、

そっくりかえりやがった。そこでまきまは、やつを

司令官にした。そして、インマに向かわせた。」

「それで、どうなったマ?」

「おいらはささくさへ、セミヨーン軍の火薬を

みんなしめらせておいたのさ。大砲も銃砲も、しめらせて

火がつかん。大筒けに負けて、やつは面目まるつぶれ、

